

西柴防災ニュース

西柴団地自治会防災部

横浜市金沢区西柴四丁目1-11

ホームページでも
ご覧頂けます。

住みよい街 西柴団地

QR
コード

西柴小学校地域防災拠点訓練（以下拠点訓練という） アンケート結果のご報告

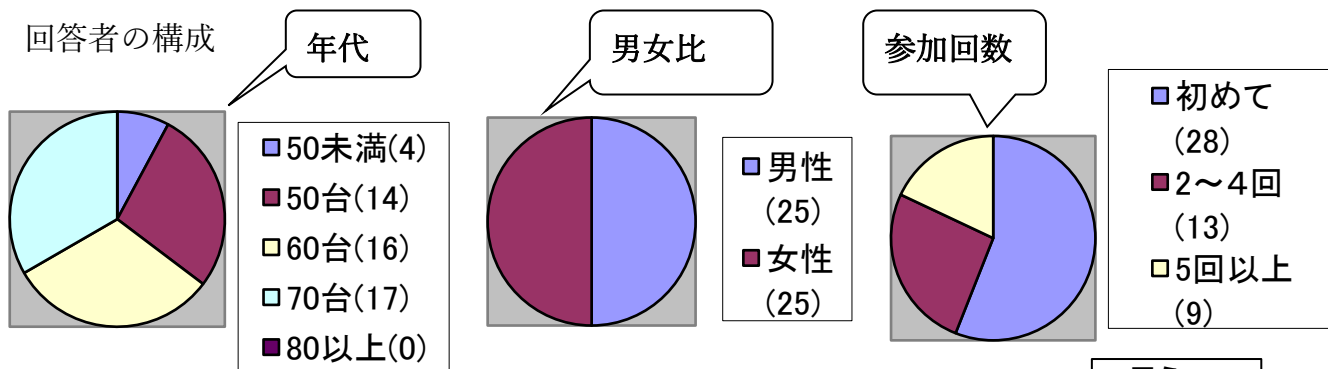
拠点訓練は11月6日に西柴小学校地域防災拠点運営委員（以下拠点運営委員という）により実施しました。訓練の様子は「西柴防災ニュース第52号」にて紹介していますのでご覧ください。今回紹介するのはその時実施したアンケート結果です、参加された拠点運営委員から貴重な意見をいただきました。

<拠点運営委員とは>

西柴団地自治会、横濱サウス自治会の住民代表や西柴小学校の管理者、横浜市職員、金沢消防団第二分団員、金沢区災害ボランティアネットワークで構成されて90名程度で拠点運営の中心的な役割を担います。西柴団地自治会からは毎年自治会の役員、部員から50名程度に委嘱しています。

アンケート結果 ➡ 回答数 53件 訓練参加者 75名 回収率 71%

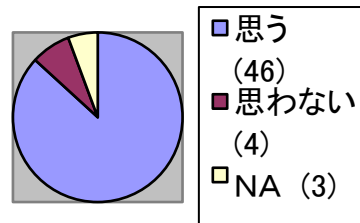
I 回答者の構成



II 参加して、災害への備えについて、どのように感じましたか。

- 1 防災拠点の備えを強化すべきだと思いますか。
- 2 家庭での備えを強化すべきだと思いますか。

全員 思うと回答された。



III プログラムの内容はどうでしたか？

	良かった	やる必要は無い	参加していない	NA
受付訓練	47	1	4	1
避難所設営	44	0	8	1
情報伝達	40	0	12	1
トイレ設営	46	0	7	0
物資配給	36	0	9	8
※延べ人数	213	1	35	11

IV 拠点運営委員の役割を理解出来ましたか？

出来た：46名 出来なかった：3名

【出来なかったと回答された方のコメント】

- ①避難者が何をやるのか(60台男性)
- ②自分が何をやるのか/分担すべきことはなにか理解するのに時間がかかった。(60台女性)
- ③コメントなし1件

【拠点運営委員会事務局からのコメント】 コロナ禍で2年間訓練を見合わせていましたが、今年度は拠点運営委員による感染症を考慮した訓練を実施しました。避難者の受付方法、トイレ設営で多くの課題が確認されました。次年度運営に生かしていきます。今回のアンケート詳細は「西柴団地自治会ホームページ」に掲載しましたので閲覧ください。またご意見は西柴団地事務局のメールアドレスに『防災訓練意見』のタイトルを付けメールを送ってください。

以上

災害時に備えた食品ストック「ローリングストック」について

農林水産省のHP からご紹介します。[災害時に備えた食品ストックガイド：農林水産省 \(maff.go.jp\)](http://maff.go.jp)

「ローリングストック」とは、普段の食品を少し多めに買い置きしておき、賞味期限を考えて古いものから消費し、消費した分を買い足すことで、常に一定量の食品が家庭で備蓄されている状態を保つための方法です。



では実際にどのような方法があるか具体的な例をご紹介します。

【高齢者世帯の実践例】



□ふだん食べ慣れていてどこでも買やすいもの、加熱しないで食べられるもの、汁物を多めに用意しているところが良い。
□缶詰、レトルトスープ、梅干しなどの食品のほか、カセットコンロ、使い捨てカイロなどの保温アイテム等も用意。
□各食品にラベルを貼って、すぐに見つけられてすぐ食べられるような工夫がよい。

【子育て世帯の実践例】夫婦と子ども二人



- すぐに食べられるものや、子どもの好きなものを忘れずに入れている。
- 家族全員がわかるようなところにおいてあるのが良い。
- 水のストックなども含めてもう少し全体量が必要。

尚、災害時に備えた食品ストックガイドの概要版を下記の URL から見られます。イラスト付きですのでどうぞご利用ください。

[guidebook-9.pdf \(maff.go.jp\)](https://maff.go.jp/guidebook-9.pdf)

第三公園防災倉庫機材確認 ご報告

2022/12/24 防災部会メンバーによって、第3公演の防災倉庫の確認をいたしました。



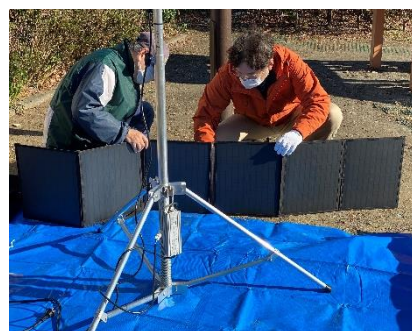
第3公園防災倉庫の収容状況



ポータブル電源の充電確認



布担架の使用法確認



ソーラーパネルの操作確認 I



購入機材（照明器、ガス発電機、電源延長ドラムコード、ポータブル電源、ソーラーパネル、ブルーシート）の確認

バンダナパトロール活動の現状報告

(2022 年度 12 月時点)

※ 2022 年度の訓練は実施しません

バンダナパトロール（以降バンパトという）とは
自治会の活動名称です。



『どんな目的で作られたか？』

災害時に住民による近隣の助け合いを行うことを目的に、ボランティア活動の協力者
約 280 名がブロック毎にグループを作り活動しています。

『どのような活動をするのか？』

<発災時は>

○担当地域住民の安否確認、情報伝達、避難誘導、情報伝達、などを行う。

<平時は>

○訓練を通して担当地域住民とコミュニケーションを図り地域の状況を知る。

○民生委員と協力して「助けてカード」提出者の見守りを行う。

○他ブロックの協力者と情報交換をして活動方法を改善する。

『バンパト活動の実績』

★ 2014 年に構想を検討、防災統括部（企画、運営、調整）を新設、試行を行う。

▼2015 年度から 2019 年度の 5 年間 10 月に全ブロックで実施。

※2017 年度は 当初 10/22 予定していたが急遽衆議院選挙となり 10/29 に日程変更。
10/29 は台風になり、大雨のなか実施した。

▼2020 年度に 防災統括部を防災部に改名（統括能力を維持できない為、調整のみ行う）

2020 年 1 月コロナ禍となる

▼2020 年度は 自治会活動自粛 バンパト活動一斉実施せず。

▼2021 年度は 2022 年 2 月に実施で準備したがコロナ感染者が多くなり活動中止。

▼2022 年度は （現在） 活動できる状況にない！！

- （理由）
- ① 2 年間のブランクがありバンパト隊居力員とのコミュニケーションが出来なく協力員の状況把握できていない。
 - ② 防災部としてバンパト活動を統括（企画、運用）できる体制でない。
 - ③ コロナ禍の活動方法が決まらない。

●今後の取り組み

- ① 登録されているバンパト隊協力員に今後の活動に参加できるか調査を行う。
同時に新規バンパト隊協力員の募集をおこなう。
- ② バンパト隊協力員が活動に必要な人数揃えば、ブロック毎にグループの編成を行う。
- ③ コロナ禍での実施方法を検討する。

※ 必要人数が揃わない時は、
活動方法の見直しを行う為、検討委員会を作る事にしたい。